

徹底的な話し合いにより、賃料の統一化等の話し合いが進み、受け手に拘らない農地の貸付けにより農地の集約化が実現(滋賀県^{まいばらし おおのぎ}米原市大野木地区)

話し合いの工夫

機構の活用

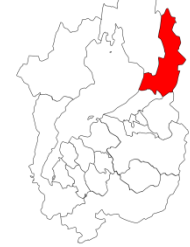
地域の概要

在所集落を営農エリアとした、耕地面積54ha、農家戸数33戸、平均年齢72歳、水稻作が中心の地域。相対契約の貸借等で農地集積は進んでいるが、**経営農地は分散・錯圃している状況**。中間農業地域。

取組の成果

- 担い手への集積率、団地数及び1団地の平均面積：
[取組前]87%(39箇所、1.1ha)⇒[取組後]92%(20箇所、2.3ha)
- 人・農地プランの取組を契機として、担い手間で徹底的な農地利用の話し合いを行い、担い手自ら集積エリアを定める農地利用図を作成。これに基づいて農地の集約化を実現

滋賀県米原市



＜人・農地プラン基礎データ＞
作成予定地域数：44
作成済地域数：31
27年度見直し地域数：8

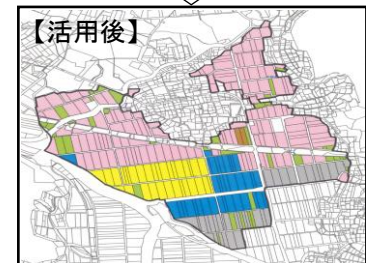
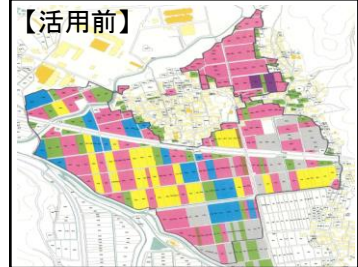
取組のポイント

人・農地プランを契機として担い手が徹底的な話し合いを主導

人・農地プランの取組として、集落の農地所有者に対してアンケートを実施して、集約化の意向を確認した上で、**集落外から入作をしている者を含めて耕作者会議を重ねて開催**した。この結果、**担い手である4つの大規模経営体に対して、地区の農地を4つのエリアに分けて集約した。**

賃料を統一することにより借受農地のスムーズな交換と集約化を実現

担い手が決定をした人・農地プランの農地利用図に基づいて、**農地の集約を着実に実現するため、地区内の農地については賃料を統一**した。これにより、借受農地の交換がスムーズに進み、**地区の9割の農地について、農地中間管理事業を活用して担い手に集約**することができた。



農地中間管理事業による集約化の状況